

トカラ列島・小宝島の動物資料収集記録

黒江 修 一*

Documentation of Animals on kodakara-jimaIsland, Toshima-mura, Kagoshima Prefecture.

Syuichi Kuroe

1 はじめに

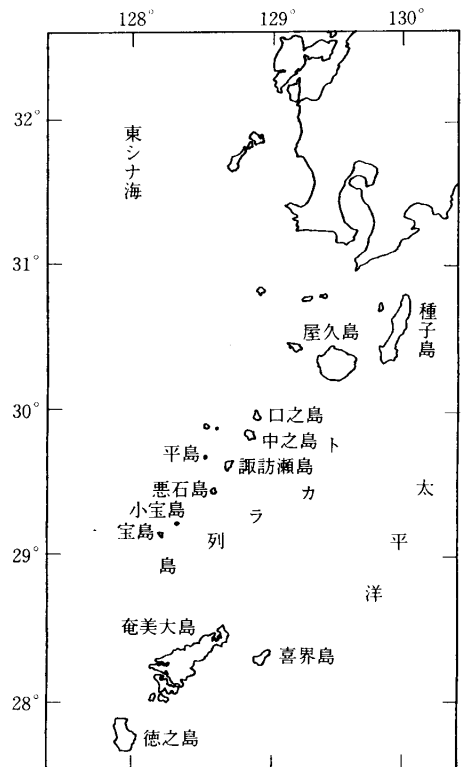
1994年12月6日（火）から9日（金）の4日間にわたり、トカラ列島の小宝島において、立体映像用のスライド写真撮影及び動物生態調査と資料収集を行う機会を得た。トカラ海峡構造直下に位置する小宝島は動物分布の上から大変興味をもたれている島であるため、爬虫類や両生類等の動物分布に関して永井（1928）、木場（1962）、千石（1979）らの調査報告がある。しかし、小宝島の鳥類に関する調査報告は見あたらない。今回筆者は、甲殻類・昆虫類・貝類等を収集し、また哺乳類・鳥類・爬虫類等の生息状況についていくつかの新しい知見を得たので報告する。

2 小宝島の概要

トカラ列島は、鹿児島港から南へ204kmの口之島を起点に、中之島、諏訪之瀬島、悪石島、小宝島、宝島、横当島等の島々と、その西側に並ぶ臥蛇島、平島から構成されている。

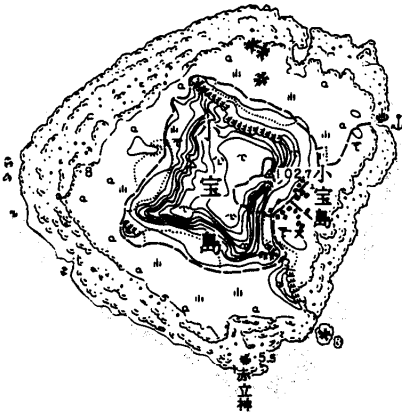
これらの島々の一つである小宝島は、宝島の北東14.5kmにある周囲3.2kmの小さな島である。最高点は竹の山102mで、山頂は平坦な石灰岩の台地となっている。山頂から南側斜面はリュウキュウチクに被われ、その中にマルバニッケイ、トベラ、シャリンバイ等の小群落が点在する。また、海岸にはピロウやアダンの群落が見られ、その中にタブノキ、ガジュマル、モクタチバナ等が混生している。植林されたクロマツも多い。また、島の所々には浸食された岩山が屹立しており、独特の景観をつくり出している。さらに海岸の至る所にはイシサンゴ類が作り上げたみごとな裾礁が見られる。小宝島は裾礁が見られる最北限の島である。

島の人口は46人、水田はほとんど見られず牧畜と漁業を中心に生活が営まれている。



鹿児島県本土とトカラ列島

*〒892：鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館



小宝島の地形図



小宝島の裾礁

3 資料収集の日程及び所感

12月5日（月）午後10:00, 鹿児島港出航

12月6日（火）午前11:30, 小宝島港着。午後0:50から双眼鏡, フィールドスコープ, 捕虫網, カメラ等を携帯し, 島の一周道路を歩いて立体映像用スライド撮影箇所の選定と野鳥の生態調査を中心に行った。宿舎付近ではアサギマダラを捕獲し, 南原牧場ではアカタテハを目撃した。また, 民家付近のガジュマル, 神社跡のリウキュウマツにおびた数々のメジロが見られた。個体によっては, 1 mの至近距離まで近づくことが出来た。横瀬海岸付近ではルリタテハ2頭を捕獲した。野鳥はこの日のセンサスで10種を確認したが, 甲虫類及びトンボ類は1頭も目撃出来なかった。

12月7日（水）空模様が妖しかったが, 撮影機材をかつぎあらかじめ決めておいた各ポイントで立体映像用スライドの写真撮影を行った。その後, 集落から小宝島港まで小雨の中をロードセンサスした。途中から雨が激しくなったので, 南原牧場の石壁下で傘をさしての定点観察に切り替えた。ツグミ, ジョウビタキ, ハシボソガラス等8種を確認したが, スズメは1個体も目撃出来なかった。午後からも雨がひどいため, 住民からの聞き込み調査と収集資料の整理を行った。

12月8日（木）午前中内陸部に入り, 爬虫類等の生態調査を行った。竹の山南側斜面ではリュウキュウチクの根元でクマゼミのぬけがらとムラサキオカヤドカリを収集した。また西側斜面でもガジュマルに登っていたムラサキオカヤドカリを収集した。竹の山から下る山道で, しげみに潜みじっとしているトカラハブの黒色個体を発見したので生態写真として記録した。大岩度, 城之前港の岩山ではコウモリや両生・爬虫類等の生態調査のためあちこちの岩穴をのぞいて回った。北側斜面の岩穴を調べた後顔を上げると, 目の前の岩からこちらの様子をうかがっているトカラハブの白色個体に遭遇, あわててとびのいたのでどうにか難を逃れたが, つくづくハブの多い島だということを実感した。

午後からは, 主に海岸動物の調査・収集及び野鳥調査を行った。隆起珊瑚礁では海水中をすばやく駆けるミナミイワガニを, そして耕作地ではカクレイワガニを採集した。また, 一周道路を横

切るリュウキュウアオヘビを目撃した。夕方は城之前港付近の草原でバッタやコオロギ類を収集したが、種類は少なかった。

12月9日（金）午前中は隆起サンゴ礁の海岸で生態調査と資料収集を行い、タイドプールでは巻貝数種を採集した。タイドプール周辺にはクロナマコ、クモヒトデ、フナムシ等の生息が観察された。午後1:00小宝島港から奄美大島の名瀬港へ移動し、名瀬空港から飛行機で鹿児島空港へ向かった。

鹿児島空港午後8:00着。

4 調査方法及び調査結果

脊椎動物

採集や目撃により確認した個体を中心に記載するが、未調査・未確認の種については島の住人から聞き込みにより得られた情報をもとに記載する。

爬虫類

トカラハブ *Trimeresurus flavoviridis tokarensis* NAGAI

小宝島と宝島に生息する毒蛇ではあるが、ハブより小型で毒性は強くはない。夜行性であるが、12月上旬の小宝島ではガジュマルで採餌中のメジロを一呑みにするなど昼間も活動は盛んであった。今回は調査中に白色型及び黒色型の個体を目撃し、写真に記録した。小枝に静止している個体は、体色が保護色となって見つけにくい。

アオカナヘビ *Takydromus smaragdinus* BOULENGER

琉球列島の固有種であるが、宝島と小宝島が分布の北限である。昨年の11月初旬筆者は宝島で多くの個体を目撃したが、12月の小宝島では1個体も見つからなかった。しかし、住民の話では体色が緑色の個体はよく見かけるとのことで、生息は確実のようである。

リュウキュウアオヘビ *Ophedrys semicarinatus* (HALLOWELL)

小宝島港付近の一周道路でリュウキュウチクの中に入ろうとする1個体を目撃した。本種を住民は、“アオダイショウ”とよんでいるようである。

両生類

リュウキュウカジカガエル *Rhacophorus japonicus* (HALLOWELL)

昨年の11月初旬筆者は、宝島の女神山山麓及びイマキラ岳北麓の旧金山跡入り口等で捕獲したが、12月の小宝島では1個体も見つからなかった。住民の話では、最近カエルはまったく見たことがないとのことである。

哺乳類

トカラヤギ *Capra hircus hircus* Linne

在来種の系統であるとも言われる本種は集落付近で数頭が飼育されている。また、小宝島の属

島の小島でもおよそ20頭が半放牧状態で飼育されている。

エラブオオコウモリ *Pteropus dasymallus dasymallus* TEMMINCK

4～5年前に子供たちがリュウキュウチクにぶらさがっている個体を捕獲、さらに、昨年10月頃、建築会社の倉庫で1個体目撃したとの情報を得た。住民の話では、春から夏にかけて多く見られるとのことである。

鳥 類

調査はコースをゆっくり歩きながら、半径50mの範囲に出現した鳥類の種類を記録した。観察・確認は肉眼あるいは双眼鏡（8倍）によった。また、センサスルート外で観察した鳥もあわせて記録した。

目	科	種	6	7	8	9
ペリカン目	ウ科	ウミウ			○	
ワシタカ目	ワシタカ科	オオタカ			○	
		ノスリ	○		○	
チドリ目	チドリ科	コチドリ			○	
		メダイチドリ			○	
	シギ科	キョウジョシギ			○	
		ヤマシギ			○	○
エンジャク目	セキレイ科	ハクセキレイ	○		○	○
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○
	モズ科	モズ	○			
	ヒタキ科	ジョウビタキ	○	○	○	○
		イソヒヨドリ	○	○	○	
		アカハラ				○
		シロハラ	○	○	○	
		ツグミ	○	○		○
		ウグイス		○	○	
	アトリ科	ミヤマホオジロ				○
	メジロ科	メジロ	○	○	○	○
	カラス科	ハシボソガラス	○	○		
		ハシブトガラス				○

無脊椎動物

節足動物

甲殻類

十脚目

オカヤドカリ科 **Parapagridae**

ムラサキオカヤドカリ *Coenobita purpureus* Stimpson 6, XII-8

イワガニ科 **Grapsidae**

カクレイワガニ *Geograpsus grayi* (H. Milne Edwards) 1, XII-8

ミナミイワガニ *Grapsus albolineatus* Lamarck 2, XII-8

昆虫類

チョウ目

シジミチョウ科 **Lycaenidae**

ヤマトシジミ *Zizeeria maha okinawana* Matsumura 3♂, XII-8

マダラチョウ科 **Danaidae**

アサギマダラ *Parantica sita* Kollar 1♂, XII-6

タテハチョウ科 **Nymphalidae**

アカタテハ *Vanessa indica* Herbst 目撃, XII-6

カメムシ目

セミ科 **Cicadidae**

クマゼミ *Cryptotympana facialis* (Walker) 羽化殻, XII-8

バッタ目

オンブバッタ科 **Pyrgomorphidae**

ショウリョウバッタ *Acrida cinerea* Thunberg 1♂, XII-8; 幼虫 2頭, XII-8

アカハネオンブバッタ *Atractomorpha psittacina* (de Haan) 1♂, XII-8; 幼虫 2頭, XII-8

マダラバッタ *Aiolopus tamulus* Fabricius 2♂, XII-8

コオロギ科 **Gryllidae**

ハラオカメコオロギ *Loxoblemmus arietulus* Saussure 1♀, XII-8

軟体動物 (貝類)

原始腹足目

アマオブネガイ科 **Neritidae**

イシダタミアマオブネガイ *Ritena helicinoides laevilabris* (Pilsbry) 1, XII-9

中腹足目

タマキビガイ科 **Littorinidae**

イボタマキビガイ	<i>Nodilittorina pyramidalis</i> (Quoy et Gaimard)	6, XII-9
テリタマキビガイ	<i>Littoraria coccinea</i> (Gmelin)	1, XII-9
コウダカタマキビガイ	<i>Littoraria pintado</i> (Wood)	1, XII-9

新腹足目

フデガイ科 **Miyriidae**

オオシマヤタテガイ	<i>Strigatella retusa</i> (Lamarck)	2, XII-9
-----------	-------------------------------------	----------

イモガイ科 **Conidae**

ハナイモガイ	<i>Darioconus retifer</i> (Menke)	2, XII-9
マダライモガイ	<i>Virroconus ebraeus</i> (Linnaeus)	2, XII-9

アクキガイ科 **Muricidae**

レイシガイダマシ	<i>Muricodrupa (Tenguella) granulata</i> (Duclos)	3, XII-9
----------	---	----------

5 おわりに

今回の調査ではなるべく広範囲の動物に関する生息状況及び資料の収集を試みた。ただ、限られた調査期間中にあらゆる動物の出現を期待することには無理があるので、住民からの聞き込みによる情報収集も併せて実施した。その結果、特別天然記念物に指定されているエラブオオコウモリ等の最近の生息情報も得た。また、これまで報告のなかった小宝島の鳥相について生息状況の一部を明かにすることが出来た。ただ、昆虫の生息状況については12月初旬の調査であったためか多くのデータを得ることが出来なかった。今後も継続調査を実施し、小宝島における動物の生息状況を明かにしていきたいと考えている。

最後に、節足動物甲殻類の同定を快く引き受けていただいた鹿児島大学水産学部の鈴木廣志助教授、並びに昆虫と貝の同定をいただいた江平憲治、前畑登理の両氏に心からお礼を申しあげる。

参 考 文 献

- (1) 森田 忠義, 1991, トカラ列島の動物相 トカラ列島学術調査書:173-176
- (2) 福田 晴夫, 1991, トカラ列島の昆虫類 トカラ列島学術調査書:179-184
- (3) 森田 忠義, 1994, トカラ列島の哺乳類 WWFネイチャーシリーズ①吐噶喇列島:18-21
- (4) 当山 昌直, 1994, トカラ列島の両生・爬虫類
WWFネイチャーシリーズ①吐噶喇列島:26-29

小宝島の動物



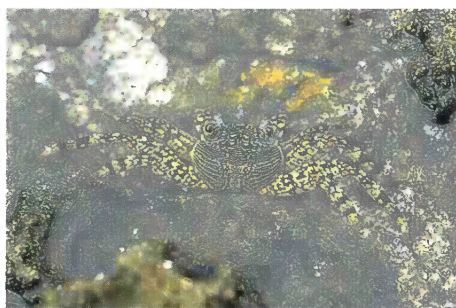
トカラハブ (白色型)



トカラハブ (黒色型)



ムラサキオカヤドカリ



ミナミイワガニ



カクレイワガニ



キバアマガイ